

令和6年度 指定管理者モニタリング票

所管課名 地域振興課
 電話番号 0835(25)2253

1 施設の概要

施設名称	防府市地域協働支援センター
設置目的	住民の福祉の向上に寄与する市民の活動を総合的に支援するとともに、市民との協働のまちづくり及び地域住民の相互交流を促進し、もって地域のにぎわいの創出と活性化に資するため、地域協働支援センターを設置する。

2 指定管理者の概要

指定管理者	名称	特定非営利活動法人 市民活動さぼーとねっと
	代表者	代表理事 堀越 政美
	所在地	防府市栄町一丁目1番17号
指定期間	令和4年4月1日 ~ 令和7年3月31日（3年間）	
選定方法	公募	
(非公募の理由)		
利用料金制の有無	有	

3 指定管理業務の運営状況

業務内容 (具体的に)	(1) 市民活動団体が活動する場の提供に関する業務 (2) 市民活動の啓発に関する業務 (3) 市民活動に関する情報の提供及び相談に関する業務 (4) 子育て中の親子が集うことができる場の提供に関する業務 (5) 生涯学習活動に資する場の提供に関する業務 (6) 防府市地域協働支援センター（以下「協働支援センター」という）の使用の許可に関する業務 (7) 協働支援センターの使用に係る料金に関する業務 (8) 協働支援センターの施設の維持管理に関する業務 (9) その他協働支援センターの管理運営上必要と認められる業務				
組織体制	センター長：1人（施設管理・貸館部門職員兼務） 施設管理・貸館部門：職員1人、パート5人 市民活動支援センター部門：職員1人、パート1人 施設管理・貸館部門・市民活動支援センター部門（夜間）：パート4人 合計13人				
労務環境	労働環境の整備については適正に行われている。				
利用状況	令和4年度	令和5年度	令和6年度	年度	年度

①

分 析	目標値	50,000	50,000	50,000		
	実績値	41,356	40,269	43,186		
	分 析	令和4年度に一度回復したものの、令和5年度には減少していたが、文化福社会館閉館に伴う、料理教室の移行により、フードスタジオの利用が増加した。しかし、研修室の利用など少人数の利用者数は増加しているが、多目的ホールで多人数の利用は、まだまだ回復していない。多目的ホールの利用の増減が、全体の人数に影響している。				

②	目標値	230	230	230		
	実績値	205	201	206		
	分析	目標値までは届いていないが、登録団体数は増加傾向にある。新規登録は、文化福祉会館閉館に伴う福祉分野の団体登録が増加している。活動を行う上での困り事について相談対応を行う中で、センター機能を紹介し登録につなげた。				

4 指定管理者の業務に係る収支状況

①指定管理業務に係る収支

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	年度	年度
指定管理料	39,600,000	39,600,000	39,600,000		
利用料金	7,874,700	7,680,300	7,960,090		
その他 (内訳)	1,300,172	617,817	990,617		
収入計(a)	48,774,872	47,898,117	48,550,707		
人件費	26,233,127	26,491,425	26,643,620		
光熱水費	11,502,744	10,426,599	10,904,344		
修繕費	0	0	33,132		
その他 (内訳)	9,017,478	8,974,840	9,885,314		
支出計(b)	46,753,349	45,892,864	47,466,410		
収支(a-b)	2,021,523	2,005,253	1,084,297		
分析	令和4年度、令和5年度よりも利用者は回復して来ているが、展示会などの多数を集客しての利用は、低調と言える。文化福祉会館から移行された料理教室などフードスタジオの利用が増えているが、光熱水費等が高騰したことにより、一層の経費削減に取り組みながら業務を遂行した。				

②自主事業に係る収支

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	年度	年度
収入計(c)	154,500	204,000	171,300		
支出計(d)	0	0	0		
収支(c-d)	154,500	204,000	171,300		
主な内容	講座				

5 利用者満足度

調査概要	実施方法	施設利用者に対してアンケートを配布し回収
	時期	令和6年11月1日（金）～30日（土）
	回収率	100%
	満足度の割合	地域協働支援センターの満足度：1～5段階で5又は4を選択 全体の96% 市民活動支援センターの機能別の満足度： 会議室・作業室について 「大変よい」「まあまあ良い」を選択 全体の94.7% 職員の対応について 「大変よい」「まあまあ良い」を選択 全体の88.2%
対応状況	<p>利用者の満足度は、施設設備や職員の対応などで、概ね9割が満足となっている。</p> <p>貸し室の利用では、オンライン研修に対応したインターネット環境、Wi-Fi機器の貸出、高輝度プロジェクターの設置などにより、オンライン研修など利用者のニーズに対応するための機器の整備とともに、スタッフのスキルアップにも努め、様々な要望に応えられるよう務めた。</p> <p>市民活動支援センターが今後取り組んで欲しいことでは、「団体と行政・企業等との協働の促進」と「団体の基盤強化」を選択したものが令和5年度同様、多かった。団体の基盤強化の取り組みとともに、地域や団体の課題解決に向けて、従来からの行政と他団体との連携や協働とともに、学生等との連携など、様々な組織や団体との連携・協働に向けた取り組みも進めて来た。また、防災や子育て支援、小・中学校や高校の総合的な実践授業など、テーマ型の連携・協働などの取り組みや共感を呼び掛けるサポートやネットワークづくりにも、持続可能な支援体制の充実を図った。</p>	

6 評価

指定管理者による自己評価	<p>貸館部門については、新型コロナウイルス感染拡大前のような、多目的ホールを利用した展示会や会合などは、回復していないが、研修室など少人数での利用や回数は増えて来た。また、文化福社会館の機能移転によるフードスタジオの利用も増えてきた。しかし、社会情勢の影響を受け、光熱水費の急騰が始まり、またその他の経費も増加傾向となった。猛暑もあり、光熱水費の予測が難しい対応を迫れることとなった。今まで以上に経費削減や見直しを行い、収支のバランスを取りながら運営を行った。各部屋にインターネット環境が整備されているという強みを活かし、オンラインやハイブリットでの研修や運営の提案を行い、認知度が向上するとともに利用も増えてきた。高輝度プロジェクターの刷新や機材を整備しながら、スタッフのスキルアップ、ノウハウの提供という形で利用者をサポートし、リピーターの獲得に繋げて来た。</p> <p>市民活動支援センター登録団体数については、新規登録団体は増加しており、ボランティアマッチングにも力を入れた。また、文化福社会館の閉館に伴う福祉分野の団体登録が増加した。</p> <p>今後も当センターの強みであるネット環境などの設備と、オンライン活用や情報発信などの市民活動支援の専門性を生かし、新たな利用や登録につなげていけるよう取り組みを進めて行く。様々な団体や組織との連携、協働を意識した取り組みを進め、市民活動センターの利用者の拡大を図って行く。</p>
市の評価	<p>【貸館部門】</p> <p>貸館については、コロナ禍以降、多目的ホールを利用した展示会や会合などの実施方法がオンラインなどに代わり、大人数での対面方式が減少傾向にあるが、研修室やフードスタジオの利用は増加している。また、光熱水費の高騰や目まぐるしい社会状況の変化にも対応し、限られた費用、限られた人員の中で運営を行った点も評価できる。</p> <p>【市民活動支援センター部門】</p> <p>市民活動支援センターについては、ボランティアマッチング数が昨年に比べ大幅に増加し、日ごろからの地道な活動の成果が出てきている。特に若い世代を取り込んだ取り組みを積極的に行っており、更なる市民活動団体の活動の発展や拡大に繋がる事を期待する。</p>